令和５年度
稚内市教育委員会活動状況
に関する点検・評価報告書

令和６年１２月

稚内市教育委員会

目　　次

Ⅰ　はじめに　・・・

重点取組７：生涯教育の推進と支援　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　28
（１）生涯学習活動支援事業
（２）社会教育推進事業
（３）図書館活動事業
（４）青少年科学館管理運営事業・青少年科学館主催事業
（５）水族館施設維持管理事業・水族館飼育事業
（６）市民スポーツ活動促進事業
（７）日本最北端わっかない平和マラソン開催費補助事業

Ⅳ　学識経験者の意見　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　36

Ⅰ　はじめに

１　点検・評価の趣旨

平成 19 年６月に、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され（平成 20 年４月１日施行）教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表をすることとされました。

本市教育委員会では、同法の規定に基づき、教育委員会が行った点検評価の結果をまとめ、報告書を作成しました。

※ 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第２６条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第１項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第４項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

２　点検・評価の対象

点検・評価は、令和５年度に実施した教育委員会の重点取組及び「令和５年度教育行政執行方針」の施策の中から 20 事業を選定しました。

また、教育委員会会議の開催状況や教育委員の活動状況など、教育委員会の活動そのものについても評価を実施しました。

３　点検・評価の方法

（１）点検・評価の視点

教育委員会会議の開催や教育委員の活動など、教育委員会の活動状況について明らかにし、課題等と今後の取り組みの方向を示しています。

（２）学識経験者の知見の活用

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取り組みへの活用を図るため、教育に関して学識経験を有する方から点検及び評価に対する意見や助言をいただきました。

本報告書に付して報告します。

氏　　名	所　属　等
遠　藤　孝　夫	育英館大学　情報メディア学部長
川　原　修　子	稚内市校長会　会長

４　点検・評価結果の公表

本報告書を議会へ提出するとともに、教育委員会のホームページなどへ掲載いたします。

Ⅱ　教育委員会の活動状況について

１　教育委員の選任状況

教育委員は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育、学術、文化などに関して識見を有する人の中から、市長が議会の同意を得て任命しております。

稚内市教育委員会は、次の４名の委員及び教育長で構成し、様々な面からの意見を教育行政に反映されるような構成に努めております。

【稚内市教育委員会委員、教育長一覧】　（令和６年３月 31 日現在）

職　名	氏　　名	委員就任年月日	備　考
職務代理者	山　本　泰　照	平成 29 年　６月 20 日～	３期目
委　　員	佐　賀　孝　博	平成 28 年　10 月　１日～	２期目
委　　員	伊　藤　輝　之	平成 30 年　４月　１日～	２期目
委　　員	門　間　奈　月	令和元年　６月　１日～	３期目
教　育　長	佐　伯　達　也	令和５年　６月　１日～	１期目

※地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第５条　教育長の任期は三年とし、委員の任期は四年とする。ただし、補欠の教育長又は委員の任期は、前任者の残任期間とする。

２　教育長及び委員は、再任されることができる。

２　教育委員会の会議開催状況、学校視察及びその他の活動

教育委員会の会議は、４人の教育委員及び教育長が学校をはじめ社会教育・文化・スポーツなどに関する事務の管理及び執行の基本的な方針、教育委員会規則の制定など、教育に関する様々な議題について審議しております。

（１）教育委員会会議

教育委員会の会議には定例会と臨時会があり、定例会は原則として月に１度、臨時会は必要に応じて開かれます。

令和５年度は、計 14 回開催し、事務局から付議案件の提案理由やその内容についての説明が行われた後、教育委員の質疑、審議をされております。

開　　催	案　　件
令和５年 第４回教育委員会会議 令和５年４月 25 日	【議案】 ◎第 31 期稚内市スポーツ推進委員の委嘱について 【報告】 ○稚内市食育推進計画の策定について ○稚内市費教職員の採用等に関する規則の一部を改正する規則について ○稚内市教育委員会自家用電気工作物保安規程の一部を改正する訓令について
令和５年 第５回教育委員会会議 令和５年５月 17 日	【議案】 ◎第 10 次稚内市社会教育中期計画立案の諮問について ◎第９次稚内市スポーツ推進中期計画立案の諮問について ◎稚内市教育委員会人事について 【報告】 ○令和５年度一般会計教育費６月補正予算について
令和５年 第６回教育委員会会議 令和５年６月２日	【議案】 ◎稚内市教育行政執行方針案について 【報告】 ○稚内市教育委員会教育長職務代理者の指名について
令和５年 第７回教育委員会会議 令和５年６月 20 日	【議案】 ◎稚内市教育行政執行方針案について ◎増幌小中学校の閉校について 【報告】 ○令和４年度教育委員会所管施設利用実績について ○稚内市スポーツ推進委員に関する規則の一部を改正する規則について ○稚内市教育委員会事務局組織規則の一部を改正する規則について ○稚内市教育委員会事務決裁規程の一部を改正する訓令について ○稚内市教育委員会公印規程の一部を改正する訓令について ○稚内市教育委員会自家用電気工作物保安規程の一部改正する訓令について ○稚内市生涯学習推進庁内会議規程の一部を改正する訓令について ○学校給食費助成事業の拡充について ○令和５年度一般会計教育費６月補正予算について
令和５年 第８回教育委員会会議 令和５年７月 19 日	【議案】 ◎第 23 期稚内市スポーツ推進審議会委員の委嘱について 【報告】 ○令和５年６月稚内市議会定例会教育委員会に係る事項について
令和５年 第９回教育委員会会議 令和５年８月 29 日	【議案】 ◎令和５年度稚内市部門別功績表彰候補者の推薦について ◎令和５年度稚内市奨励賞表彰候補者の推薦について ◎令和５年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載（案）について ◎令和６年度使用小学校用及び中学校用教科用図書並びに学校教育法附則第９条の規定に基づく教科用図書の採択について 【報告】 ○令和５年度全国学力・学習状況調査の結果について ○令和５年度一般会計教育費９月補正予算について

	○稚内市学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について ○稚内市体育館について
令和５年 第 10 回教育委員会会議 令和５年９月 27 日	【報告】 ○第６回日本最北端わっかない平和マラソン 2023 について ○クラウド型授業支援アプリの導入について
令和５年 第 11 回教育委員会会議 令和５年 10 月 27 日	【報告】 ○令和５年９月稚内市議会定例会教育委員会に係る事項について ○債権の放棄について ○恵北保育所の廃止について
令和５年 第 12 回教育委員会会議 令和５年 11 月 27 日	【議案】 ◎学校給食費改定に係る諮問について ◎稚内市立学校設置条例の一部を改正する条例について ◎稚内市立小学校及び中学校の通学区域に関する規則の一部を改正する規則について ◎稚内市立へき地保育所条例の一部を改正する条例 【報告】 ○令和５年度一般会計教育費 12 月補正予算について
令和５年 第 13 回教育委員会会議 令和５年 12 月 22 日	【議案】 ◎令和４年度稚内市教育委員会活動状況に関する点検・評価報告書（案）について ◎令和６年度稚内市一般会計教育委員会所管当初予算要求（歳出）について ◎令和６年度学校給食費改定について 【報告】 ○公の施設の教育委員会所管施設に係る指定管理者の指定について ○第９次稚内市スポーツ推進中期計画の策定に係る答申について
令和６年 第１回教育委員会会議 令和６年１月 26 日	【議案】 ◎稚内市教育行政執行方針(素案）について ◎稚内市立学校管理規則の一部を改正する規則について ◎稚内市立学校職員の自家用車の公用使用に関する規則の一部を改正する規則について ◎稚内市教育委員会自家用電気工作物保安規程の一部を改正する訓令について 【報告】 ○第 10 次稚内市社会教育中期計画の策定に係る答申について ○学校給食費改定の時期について ○令和５年 12 月稚内市議会定例会教育委員会に係る事項について
令和６年 第２回教育委員会会議 令和６年２月６日	【議案】 ◎稚内市教育行政執行方針（案）について
令和６年 第３回教育委員会会議 令和６年２月 20 日	【報告】 ○稚内市体育館の重油タンクからの重油漏れについて ○令和５年度一般会計３月補正予算について ○令和６年度稚内市一般会計予算（教育部所管）について ○学校給食の停止について

令和６年 第４回教育委員会会議 令和６年３月 19 日	【議案】 ◎稚内市教職員人事について ◎稚内市いじめ防止基本方針（案）について ◎第 10 次稚内市社会教育中期計画（案）について ◎第９次稚内市スポーツ推進中期計画（案）について 【報告】 ○令和５年度稚内市学校教育推進計画の学校評価について ○令和５年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果の公表について ○令和５年度稚内市文化振興育成補助金について ○令和６年３月稚内市議会定例会教育委員会に係る事項について ○稚内市立中央児童会館条例の制定について ○稚内市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について ○稚内市学校管理規則の一部を改正する規則について ○学校給食センター条例施行規則の一部を改正する規則について

（２）総合教育会議について

総合教育会議は、市長と教育委員会により、教育行政の大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、児童生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき処置について協議・調整を行っております。

開　　催	案　　件
令和５年度 第１回稚内市総合教育会議 令和６年３月 19 日	【協議事項】 ①第３次稚内市教育大綱について ②児童生徒の学力向上対策について 【報告事項】 ①稚内市いじめ防止基本方針について

（３）教育委員の学校視察訪問について

小学校・中学校を訪問し、授業参観や教職員との懇談を通じ、学校経営や学校（児童・生徒）の状況を把握し諸問題に関する意見や要望を行政に反映させる活動を行いました。

	訪問年月日	学　校　名
第１回	令和５年８月 29 日	稚内東小学校
第２回	令和５年９月４日	稚内港小学校
第３回	令和５年 11 月６日	稚内東中学校

（４）その他の活動について

教育委員は会議のほか研修会への参加、他の自治体の教育委員との情報交換や議論を通じて、職務遂行に必要な知識の習得に努めています。

また、入学式、卒業式、運動会、学芸会などの学校行事をはじめ、校長会など教育関連機関との懇談や教育関係研究会への出席、社会教育事業などへも出席し、教育現場の状況に理解を深めております。

令和５年度においては、教育予算、教育の課題や方向性等について市長との意見交換を行うとともに、市長から独立した合議制の執行機関として教育行政を推進しております。

３　今後の活動について

教育委員会では、委員相互間及び事務局との議論がより活発に行われるよう努めております。

また、多様な意見を教育行政に反映するため、各分野から委員を選任し、今日の教育課題等に対し、毎月定期的に開催される教育委員会会議の中で、委員と事務局の認識の共有化を図りながら、教育委員会の活性化を推進してまいります。

今後も、関係者との情報交換や各学校の行事、学校等教育施設への訪問などを通じ、教育現場を取り巻くニーズの把握に努めるとともに、事務局に対するリーダーシップを発揮し、教育委員会として適切な意思決定、さらなる教育委員会の活性化に努めてまいります。

Ⅲ　教育委員会の施策に関する評価

１　点検・評価結果の構成について

（１）「令和５年度の教育行政執行方針及び教育委員会重点事業」

「令和５年度の教育行政執行方針及び教育委員会重点事業」から、教育委員会で実施した重要施策の中から 20 事業について評価を行っております。

（２）「事業の目的・内容」

事業ごとに「目的」、「令和５年度の事業内容」を記載しています。

（３）「評価」

事業ごとに「実施内容」、「成果等」を総合的にＡ～Ｃの３段階で評価し記載しています。

A	目標以上の取組を実施した	B	一定程度取り組んだ	C	目標には及ばなかった

（４）「今後の取組」

現状の課題を踏まえ、今後の改善策を記載しております。

≪重点取組１≫
学力向上対策事業

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">１．次代を担う人材の育成と地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">１．生きる力を育む学校教育の充実</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">放課後学力グングン塾開催事業</td><td>担当課</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">基礎学力の確実な定着を最大の目標とし、併せて、活用力や判断力、表現力が向上することを目的とし、小学校3・4年生を対象として放課後学習を実施する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>15,066千円</td><td>15,749千円</td><td>16,009千円</td><td>12,797千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇小学校の大規模校4校で3・4年生を対象とし、放課後に学習機会を設ける。
〇夏休み、冬休み中にも各3回程度学習機会を設ける。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇引き続き検証を行いながら、標準学力テスト（CRT）で、全国比に近づける。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">５月～３月　放課後学力グングン塾の開催（３・４年生、週4日）</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">４月　保護者説明会
７月　夏休みグングン塾の開催（３・４年生）
８月　夏休みグングン塾の開催（５年生）</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">１月　冬休みグングン塾の開催（３・４・５年生）
３月　アンケートや標準学力テストなどによる検証
春休みグングン塾の開催（５年生）</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4">〇指導員の確保ができなかったため、予算額と大幅な乖離がある。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇対象校４校において、３・4年生に対して放課後に国語・算数の補習を３年生は週２回、４年生は週１回、１時間程度実施した。（当初計画では3・4年生とも週２回）
〇夏休みグングン塾、冬休みグングン塾を３・４年生はそれぞれ3日開催し、加えて５年生も１回開催した。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇対象校４校で206人（参加率 52.8%、前年比 1.6ポイント増）の児童が参加した。
〇児童アンケート（２月）の回答では、グングン塾に参加して「ふだんの授業が楽しくなった」が37.8%（３年）　40.4%（４年）、「今まで分からないことがよく分かるようになった」が54.4%（３年）・52.5%（４年）という結果となった。
〇繰り返し取り組むことで計算が早くなる等の効果が出ている。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇基礎学力の定着は喫緊の課題であり、事業を継続的に取り組んでいく必要がある。
〇市内４小学校で実施してから10年が経過したが、一定程度の成果はあるものの、指導員の人員確保に課題があることから、児童の学力定着に向けた事業の在り方を再度検討する必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇GIGAスクール構想による1人1台端末の整備を機に、指導員不足を補う意味でも、タブレット端末を有効活用した取り組みを検討したい。
〇基礎学力の確実な定着を図るため、個々の習熟度に合わせた放課後学習を継続したい。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">１．次代を担う人材の育成と地域とともにある学校づくりの推進</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">１．生きる力を育む学校教育の充実</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">小中学校教育振興事業（学力向上推進関係）</td><td>担当課</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">児童生徒の基礎・基本的学力の確実な定着と学習意欲の向上を図るための取り組みを推進する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>1,568千円</td><td>1,513千円</td><td>1,531千円</td><td>5,097千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">全国学力学習状況調査やCRT標準学力検査の結果等を踏まえ、基礎的、基本的な知識・技能の一層の定着を図り、教科の知識・技能を活用する学習の充実により、本市児童生徒一人一人の学力向上に向けた取組を進めていく。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">全国学力学習状況調査及びCRT標準学力検査において各教科の平均を全国平均に近づけていく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">学力向上に向けた取り組みの検討</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">〇全国学力学習状況調査の実施及びその検証</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">〇CRT標準学力検査の実施及びその検証</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">令和５年4月に全国学力学習状況調査、令和５年12月～令和６年１月にCRT標準学力検査を実施し、その分析・検証等を行い指導方法の見直しなどを図った。
また、ICTを活用した効果的な授業等を進めるにあたり、授業支援アプリ等の導入に向けて検討を行った。</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">全国学力学習状況調査では、全国平均までは至っていないが、昨年度と比較すると小学校は算数、中学校は国語・数学において全国との差を縮めてきている。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">ICTを活用した効果的な授業づくりが進められていない状況があるため、その検討や対応が急務となっている。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">授業支援アプリやAIドリルの導入により、効果的な授業づくりや家庭学習などの課題について改善を図っていく。</td></tr>
</table>

≪重点取組２≫
教育関係施設整備の取組

１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
１．次代を担う人材の育成と地域とともにある学校づくりの推進			
１．生きる力を育む学校教育の充実			
GIGAスクール構想整備事業	担当課	学校教育課	
国のＧＩＧＡスクール構想に基づき、市内小中学校の1人1台のタブレット端末を整備する。			
R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
3,102千円	3,807千円	3,698千円	0円
1人1人のタブレット端末を活用した教育活動を行うため、タブレット端末及び使用可能な周辺環境を整備する。			
1人1台のタブレット端末及び周辺環境を整備し、授業での活用、コロナ禍によって登校できない場合の遠隔授業での活用など、児童生徒の学習環境を充実するとともに、学びの機会を保障する。			
通年	学校情報化推進検討委員会を定期的に開催し、学校間でタブレット端末の活用状況を確認し更なる授業での活用を図る。また、フィルタリングソフトを導入し、安心した環境でタブレット学習に取り組める環境を整備する。		
上半期			
下半期			
実施内容	○学校情報化推進検討委員会のなかでタブレット端末の活用等について学校間の情報共有を図った。	B	
成果等	○学校情報化推進検討委員会で情報共有を図り、タブレット端末の更なる活用に向けて検討を行うことができた。	B	
Ａ：目標以上の取組を実施した　Ｂ：一定程度取り組んだ　Ｃ：目標に及ばなかった			
現　状　の　課　題			
○学校情報化推進検討会の定期的な開催の中で、端末の持ち帰りやアプリ活用のルールなど、現状の課題を洗い出し、問題を提起し、積極的な活用に向けた取り組みを図ることが必要である。			
改　善　策			
○学校情報化推進検討会において、引き続き現状の課題を洗い出し、積極的なタブレット端末の活用に向けた取り組みを進めていく。 なお、フィルタリングソフトについては、次年度から導入する授業支援アプリのフィルタリング機能を活用することとなるため、R６年度の事業費は発生しない。			

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	１．次代を担う人材の育成と地域とともにある学校づくりの推進			
施策	１．生きる力を育む学校教育の充実			
当該事業名	稚内中学校整備事業		担当課	学校教育課
事業目的	老朽化している稚内中学校を耐震診断により耐震性が低いと判定された校舎・体育館を耐震補強工事ではなく、小中一貫教育を深化した義務教育学校の移行を踏まえ、建替えにより耐震性を確保する。北地区の在り方検討会を通して、義務教育学校を視野に入れた学校づくりを進めてきており、建築については令和７年９月末までに完成、令和８年１月末より供用開始を目指す。義務教育学校への移行については、適正な時期等について学校や保護者と連携を図りながら整理をし、スムーズな移行を目指す。			
事業費（決算） （単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	4,818千円	134,321千円	146,150千円	96,853千円
行動目標	○老朽化した稚内中学校が早期に建築できるよう、令和７年９月末のスケジュール通りに改築ができるよう進める。 ○将来的に稚内中央小学校と稚内中学校が義務教育学校へスムーズ移行できる体制を整える。			
成果目標	○建築状況やスケジュールについて、建築業者と学校の調整を図り定期的に確認する。 ○義務教育学校について、学校、保護者、地域に対し周知等を行い、理解を図る。 ○義務教育学校の学校名、校歌等を決める、カリキュラム等を作成をする。			
事業内容 （ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	○義務教育学校開校に向けた検討		
	上半期	○稚内中学校外溝工事実施設計（４月～６月） ○稚内中学校整備付帯工事（６月～10月）		
	下半期	○稚内中学校校舎建設工事（９月～） ○稚内中学校屋内運動場建設工事（９月～）		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	令和５年６月に外溝実施設計が完成。 令和５年６月からは整備付帯工事に着手し10月には完成。令和５年９月から校舎建設工事及び屋内運動場建設工事に着手した。		B
	成果等	当初予定していた実施設計や建設工事は概ねスケジュール通りに進められた。		B
	Ａ：目標以上の取組を実施した　Ｂ：一定程度取り組んだ　Ｃ：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	建物（ハード面）は令和５年９月より着工し、概ね計画通り進められているが、義務教育学校への移行に向けた学校名や校歌、９年間を見通したカリキュラムの作成など、教育課程（ソフト面）の検討が不十分である。			
	改善策			
	学校建設については引き続き、建築業者と学校と調整を図りながら着実に進めていく。義務教育学校移行に向けた検討会の立ち上げは実施できなかったが、小中学校の校長間において、義務教育学校へ移行した際のカリキュラム作成を今後進めて行くほか、教職員・保護者・地域を交えながら、校歌や学校名など学校運用面も含め、詳細部分について協議を進めていく。			

≪重点取組３≫

子育て運動の展開
と青少年交流の推進

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">３．安心して子どもを産み育てられる環境づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">３．地域の中で子どもを見守り育てる社会の形成</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">子育て推進事業</td><td>担当課</td><td>社会教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">〇「子育て平和都市宣言」の趣旨に基づき、地域ぐるみの子育てが根付くように各事業を実施する。
〇本市の「子育て提言」にある事項について、各地区子育て連絡協議会や教育講演会、全市子育て交流研修会などで学び合い、理解の促進、定着を推進する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>960千円</td><td>741千円</td><td>956千円</td><td>1,000千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">「子育て平和都市宣言」の趣旨に基づき、「教育講演会」や「子ども会議」、子育て平和の日の取り組みなど各種事業を展開し、より充実した子育て環境の充実及び市民意識の醸成を進める。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">子ども達が平和の大切さを学ぶとともに、家庭や地域の教育力が育まれ、教育環境の充実につながるよう、学校・家庭・地域が一体となった、子育て運動を一層強化していく。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">・子育ての日事業　みんなおいでよ！親子ふれあいデー
・子ども会議
・教育講演会（2回）
・平和折り鶴祭り
・子育て平和記念式典
・平和学習資料の改訂、配布</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">・子ども会議
・全市子育て交流会</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">●子育ての日事業　みんなおいでよ！親子ふれあいデー（4/29）
●子ども会議（7/11、11/20）
●子育て平和の取り組み
・平和折り鶴祭り（7/29～8/14）
学校、市民による平和祈念した折り鶴　約207千羽を中央アーケードほかに展示
・平和記念式典（9/1）
学校、関係団体を含め約200人が参加
●教育講演会（6/10、7/2）
久保田雅人氏、高野優氏による子育てに関する講演
●全市子育て運動交流研修会（2/9）
テーマ「コミュニティスクール」「子ども会議内容の交流、報告」</td><td>A</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">・コロナ禍により3年間中止としていた親子ふれあいデーが再開し、子ども会議はオンラインと集合会議の双方の良さを活かしたハイブリット型によって開催、また子ども会議のテーマと連動した全市子育て運動交流研修会を開催し、学校、家庭、地域が協働した本市の子育て運動について、学びを深めることができた。
・大韓航空機事件から40年の節目の年にあたり、遺族会の理解、協力も得ながら、平和式典や平和学習の充実が進み、意識醸成が図られた。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">子ども達を取り巻く社会情勢や生活状況を適切に把握しながら、本市の歴史ある子育て運動を基本として、子ども達にとってより良い生活習慣、家庭・教育環境の充実に向けた取り組みを継続、推進していく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">子ども達の置かれている現状を把握し、教育講演会や子育て交流会を通して、学校・家庭・地域が状況を共有しながら見識を深め、地域ぐるみの子育て運動を継続、展開していく。</td></tr>
</table>

≪重点取組４≫
子育て支援環境の充実

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">３．安心して子どもを産み育てられる環境づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">３．地域の中で子どもを見守り育てる社会の形成</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">教育相談・不登校対策事業</td><td>担当課</td><td>学校教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">児童生徒の問題行動や悩み等に対して、適切な教育相談を行い、早期の問題解決を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>11,811千円</td><td>13,253千円</td><td>12,756千円</td><td>19,647千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇子育て電話相談や来所面談等に対応し、必要に応じてケース会議等に参加する。
〇スタッフ会議、適応指導委員会を定期的に開催し、関係機関等との連携を密にする。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇児童生徒及び保護者等に適切な教育相談を行い、問題の早期解決を図る。
〇学校不適応児童生徒に対して、必要な援助を行い、集団生活への適応や学校生活への復帰促進を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">教育相談の実施
適応指導教室の運営
教育相談スタッフ会議</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">適応指導委員会（6月）</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">適応指導委員会（11月）
適応指導委員会（２月）</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4">教育相談アドバイザーがR5.8より欠員のため</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇教育相談は、電話・来所面接あわせて447件（R4:551件、R3:414件、R2:491件）
〇つばさ学級には20名が通級。
〇スタッフ会議は8回、適応指導委員会は3回開催した。
〇就学前教育アドバイザーが、幼稚園･保育所の要請訪問を実施</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇相談所・適応指導教室に相談員・指導員等を配置し、各種教育相談の早期対応、助言、課題解決を図ることができた。
〇スタッフ会議、適応指導委員会を通して、支援を要する児童生徒、課題がある児童生徒について交流・協議を行った。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ａ：目標以上の取組を実施した　Ｂ：一定程度取り組んだ　Ｃ：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇教育に関する相談は多様化･複雑化しており、退職教員や適任者の確保が課題である。
〇小学校就学に幼保からスムーズに接続できるよう、関係者との連携が重要となる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇保護者・学校などと連携し、より充実した体制のもとで活動できるよう推進する。
〇就学前教育アドバイザーの役割･メリットが保護者や関係機関に浸透してきており、相談機会も増えていることから、さらに周知･連携を図り、より効果的な活用を進める。</td></tr>
</table>

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	３．安心して子どもを産み育てられる環境づくり			
施策	３．地域の中で子どもを見守り育てる社会の形成			
当該事業名	子育て世代包括支援センター運営事業	担当課	こども課	
事業目的	妊娠・出産・子育てに関する各種相談に応じ、母子保健施策と子育て支援施策との一体的な提供を通じて、包括的な支援を行うことにより、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する体制を構築する。			
事業費（決算） （単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
		3,974千円	3,958千円	4,900千円
行動目標	保育士１名をこども課に配置し、健康づくり課が実施する乳幼児健診や相談に従事し、その場で子育て支援について情報提供をする等、母子保健と子育て支援サービスを一体的に提供する。			
成果目標	・妊娠期から子育て期の母子やその家族が気軽に安心して相談できる相談窓口として、様々な機会や媒体を通して周知を図る。 また、教育・保育施設や地域の子育て支援事業等について情報提供、相談、利用支援等を行う。			
事業内容 （ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	健康づくり課で実施する各種健診の場において、子育て支援の情報提供や相談対応を行った。 毎月１回定例会議を開催し、妊娠期から支援が必要な妊婦等について情報共有及び支援方針についての検討を行った。		
	上半期	同上		
	下半期	同上		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	①妊産婦及び乳幼児等の実情を把握する。 ②妊娠・出産・子育てに関する各種の相談に応じ、必要な助言・保健指導を行う。 ③支援プランを策定する ④保健医療又は福祉の関係機関との連絡調整を行う。 ※③については、健康づくり課が実施。		A
	成果等	・健康づくり課が実施する健診等の場において、情報提供等を行い、子育て支援事業について周知すると共に、各種子育て支援サービスの申請手続き勧奨を行う等、スムーズに利用できるよう支援した。 ・健康づくり課とZoomで繋ぎ、こども課に来所した際にそのまま保健師と健診等について相談が出来る等、相談窓口のワンストップ対応を行った。		A
	Ａ：目標以上の取組を実施した　Ｂ：一定程度取り組んだ　Ｃ：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	・令和４年度は16件、令和５年度は２件とオンライン相談の利用が少ない。 ・毎年、更新手続きが必要となる子育て支援サービスを継続して利用できるよう支援する必要がある。			
	改善策			
	・引き続き、広報誌、ＨＰ等、様々な機会、媒体を通して周知徹底を図り、妊娠期から子育て期に関する相談窓口として広く周知する。 ・健康づくり課が実施する健診等の場において、各種子育て支援サービスの情報提供を行い、利用の有無に関係なく、年度で更新手続きが必要となる申請手続きの勧奨を行い、利用したいときに、スムーズに利用できるよう支援する必要がある。 ・自宅にいながら保健師等の専門職に相談ができるオンライン相談についての説明と、手続き方法について周知を行う。			

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">1．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">3．安心して子どもを産み育てられる環境づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">3．地域の中で子どもを見守り育てる社会の形成</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">児童家庭相談・母子家庭等自立支援事業</td><td>担当課</td><td>こども課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">○個々の子どもや家庭に最も効果的な援助を行い、もって子どもの福祉を図るとともにその権利を擁護することを目的とする。
○母子家庭等の家庭の状況等に応じて就業相談を実施するとともに、生活の安定と児童の福祉の増進を図るための相談等、母子家庭等への自立に向けた総合的な支援を行うことを目的とする。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>3,299千円</td><td>4,607千円</td><td>5,012千円</td><td>7,223千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">・家庭児童相談員を配置し、児童の福祉に関し、必要な実情の把握及び情報の提供を行うとともに、家庭その他からの相談に応じ、必要な調査及び指導を行い適切な支援を行う。
・母子・父子自立支援員を配置し、母子家庭等の様々な相談に応じるとともに、就職や転職に有利となる資格・技能等の取得支援やハローワークと連携し就業支援を行う。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">・家庭その他からの相談に応じ、必要な調査及び指導を行い適切な援助を行う。
・要保護児童対策地域協議会の開催（代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議）
・母子・父子自立支援員による母子家庭等の様々な相談に応じる。
・母子家庭等に対し、就職や転職に有利となる資格・技能等の取得、就業支援を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">・家庭児童相談員による家庭児童相談の実施
・要保護児童対策地域協議会個別ケース検討会議の実施
・母子・父子自立支援員による自立支援相談の実施</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">・稚内市児童問題連絡会総会</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">・文化センターロビーにおいて、ポスター等の掲示による児童虐待防止に関する啓発を実施</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">○家庭児童相談員
・子育てに関する相談
・要保護児童対策地域協議会代表者会議、実務者会議、個別ケース検討会議の開催
○母子・父子自立支援員
・ひとり親家庭等に対する相談
・児童扶養手当受給者に対する、生活保護受給者等就労自立促進事業の実施
・ひとり親世帯に対する手当や母子
・父子・寡婦福祉資金の貸付など、ひとり親家庭等の自立に必要な支援</td><td>A</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">○相談業務
家庭児童相談件数　75件　　母子・父子自立支援員相談件数　70件
○要保護児童対策地域協議会
代表者会議（総会）　1回（書面表決）・実務者会議　2回
個別ケース検討会議　20回
○母子家庭等自立支援給付
教育訓練給付金　0件
高等技能訓練促進費等給付金　1件　月額100千円支給（年額1,200千円）
星槎道都大学通信教育課程　保育士コース
○生活保護受給者等就労自立促進事業
参加　11名
就業に至った人　5名・就業に至らなかった人　2名・支援期間中　4名</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　　B：一定程度取り組んだ　　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">・家庭児童相談については、相談件数は横ばいだが、複雑、多岐にわたる内容となっており、支援が長期化してきている。
・養育費に関する相談や、児童の進学等に伴う貸付など経済的支援が必要な相談が多いため、利用できる各種制度の把握が必要。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">・家庭児童相談員を始め、児童相談に対応する職員等に対し、児童虐待対応に関する研修等の受講をすすめ、スキルアップに努める。
・子育て世代包括支援センターと連携し、妊娠期から支援が必要な妊婦を把握し、適切な支援に繋げ虐待リスクの軽減を図る。
・養育費等の相談については、母子家庭等就業・自立支援センター等関係機関相談員に繋ぐなど、連携し対応していく。
・経済的支援については、ハローワークと連携した就労支援や、他機関が実施している制度の把握、児童扶養手当現況届時の情報をもとに、定期的に連絡を取り生活状況を確認していく。</td></tr>
</table>

≪重点取組５≫

学校給食費負担半減
と地産地消の取組実施

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	３．安心して子どもを産み育てられる環境づくり			
施策	２．子育て環境の充実			
当該事業名	学校給食費助成事業		担当課	学校給食課
事業目的	本事業は子育て支援の一環として、準要保護児童に対する就学援助事業を拡大（延長）した事業と位置づけ、低額所得世帯を対象に実施することにより、学校教育の充実及び子育て支援の推進を図る。			
事業費（決算） （単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	8,604千円	5,904千円	54,118千円	58,542千円
行動目標	○制度の拡充により、助成金が2種類となったため、申請者が混同しないよう、また申請し忘れがないように周知の徹底を図る。			
成果目標	学校給食費特別助成金　　助成対象人数、助成額及び助成率 小学校　　193人　5,325千円　16.16% 中学校　　95人　2,960千円　15.75%			
事業内容 （ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年			
	上半期	○学校への制度説明及び協力依頼 ○制度周知活動 ○学校給食費特別助成金の申請受付・申請受理・交付決定・却下通知送付		
	下半期	○広報誌などによる再周知 ○学校給食費特別助成金の交付決定・却下通知送付 ○給食費への歳入振替処理 ○給食費の清算		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由	制度の拡充により、前年度と同基準の世帯に学校給食費特別助成金として上半期の給食費を助成する外、原則全世帯に対して学校給食費助成金として下半期の給食費を助成するため、執行額が大幅に増額となった。			
達成度・効果度	実施内容	○学校に対して制度説明を行い協力依頼を行った。 ○広報誌・ホームページなどにより周知の取組を行った。 ○対象者の申請漏れがないように、前年申請があって本年度に申請がない方に対して、個別に連絡の取組を行った。		B
	成果等	○学校給食費特別助成金については、前年同基準の助成と比較し、小学校で若干助成率が上昇したものの、中学校は大きく下がったため、全体で1.54ポイントの減少となった。 《学校給食費助成金　助成人数及び助成額》 小学校　1,223人　30,998,856円 中学校　　593人　17,552,072円 合計　　1,816人　48,550,928円 《学校給食費特別助成金　助成人数、助成額及び助成率》 小学校　146人　3,891,645円　11.94% 中学校　　55人　1,675,488円　　9.27% 合計　　201人　5,567,133円　11.07%		B
	A：目標以上の取組を実施した　　B：一定程度取り組んだ　　C：目標に及ばなかった			
今後の取組	現　状　の　課　題			
	助成を受けることができる世帯の総数が不明のため、申請漏れがどの程度あるのかを把握することが困難。			
	改　善　策			
	助成を受けることができる世帯数は、税情報が関係することから把握が困難なため、引き続き申請漏れがないように周知を徹底する。 本事業は助成金が2種類あるため、申請者が混同しないよう丁寧な周知を行う。			

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	１．次代を担う人材の育成と地域とともにある学校づくりの推進			
施策	１．生きる力を育む学校教育の充実			
当該事業名	学校給食地場産物提供事業		担当課	学校給食課
事業目的	学校給食に稚内ブランドや地場産物の食材を取り入れることにより、食に関する指導の「生きた教材」として活用し、子どもたちが、食材を通じて地域の自然や文化、産業等に関する理解を深めるとともに、郷土を愛する心や食への感謝の念を育むことが出来るなどの高い教育効果を期待するとともに、地産地消の推進を図る。			
事業費（決算）（単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	8,942千円	8,953千円	8,953千円	8,953千円
行動目標	○「学校給食地場産物提供事業」を予算化し、稚内ブランドをはじめとした地域の食材を提供することで地産地消と食育の推進を図る。 ○稚内ブランド提供　38回、地場産物提供　50回			
成果目標	○稚内ブランドや地産地消を季節に応じて提供する。 ○学校給食を生きた食材として効果的に活用する。			
事業内容（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	○給食献立作成委員会で稚内ブランドや地場産物の選定を行う。 ○季節に応じた「稚内ブランド」、「地場産物」の提供を行う。		
	上半期			
	下半期			
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	《地場産物の取組》 ○稚内ブランドや地域の食材を使用し、季節に応じた給食を提供した。 ☆稚内ブランドの提供回数（提供回数55回） ※一夜干姫ほっけ・稚内牛乳・宗谷の塩・宗谷黒牛・宗谷のほたて貝 ☆地場産物（提供回数53回） ※特製フランクソーセージ・さばの塩焼・ほっけのみりん焼き等 ☆郷土料理の提供 ※さつま汁・各種すり身汁・のっぺい汁・呉汁・団子汁・ジンギスカン・チャーメン・石狩鍋・にんじんしりしり等 ○地場産物の納品に関して、地元業者と連携した。 ○「給食だよりダイジェスト」・「給食センターだより」・「献立表」・「栄養価表」・「みんなの学校給食」の発行等、学校給食に関する情報発信 ○給食時間での放送原稿を配布することにより、食に関する情報提供		A
	成果等	《地場産物の取組》 ○学校教育における食育活動の生きた食材として活用された。 ○地場産物の食材を通じて、地域の産業や食文化にふれながら「食」への関心と理解を深めることができたことと、児童生徒がより身近に実感をもって地域の自然・食文化・産業等について理解を深めることができた。		B
	A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	生の魚介類をさばく事や泥付きの野菜を処理する事などが、当施設の設備では、学校給食衛生管理基準上取り扱いできないことから、加工した食材の取扱が多くなり、その分価格も高価になる。また、業者の人手不足から加工が困難で納品できないケースや、当市の特徴から地場産物は海産物が多いが、不漁による原料減少により学校給食に使用する分量が確保できないなどの影響が発生している。			
	改善策			
	食材納入業者に対して、早い時期からの原料確保の相談や、時期的に漁獲量が多い食材を使用するなど、栄養教諭を中心とした献立の工夫を進める。また食材納入業者に、新商品の開発など協力体制を要請する。			

≪重点取組６≫
文化振興と郷土芸能の推進

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">２．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">３．芸術・文化活動の環境づくり</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">稚内市文化事業振興協議会事業費補助事業</td><td>担当課</td><td>社会教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">地域に根差した国際色豊かな文化都市「稚内」を目指すため、舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、稚内総合文化センターの利用促進に努める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>0円</td><td>2,700千円</td><td>2,700千円</td><td>2,700千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">過去の公演実績や稚内総合文化センターの利用状況、市民ニーズを鑑み、多彩な舞台芸術に触れる機会を確保、提供する。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇演劇など多彩な文化芸術鑑賞機会を創出する。
〇プロの演劇などの鑑賞に加えて、市内団体等に呼びかけ、市民参加型の事業を目指す。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">〇企画会社との連絡、調整事務。
〇公演企画に関する情報収集。
〇公演の実施</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">〇総会の実施</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">〇次年度公演内容の検討、総会の実施</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇人形劇「不思議駄菓子屋　銭天堂」の実施
・令和6年2月17日（土）　観客数約500人
・公演と連動した模擬駄菓子屋の設置、体験
・主演人形との記念撮影コーナーの設置</td><td>A</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇子ども達に人気、知名度がある原作小説を元にした人形劇を招致し、幼児から小中学生、高校生を含む多くの親子が来場し好評を得られた。
〇低年齢層に好まれる題材、演目を公演したことで、幼少期から舞台芸術に触れる機会を確保することができた。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現状の課題</td></tr>
<tr><td colspan="4">・舞台芸術への興味、関心を喚起するため、各年齢層ごとに市民ニーズに応じた公演を、均等、順序よく選定していく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改善策</td></tr>
<tr><td colspan="4">・時代やニーズに合った公演の選定に努め、様々な媒体での周知広報を行う
・各分野の文化団体と調整し、継続的に文化センターを中核として文化的活動の機会を確保するほか、公演団体や市内団体と連携して、市民参加型公演の可能性を探る</td></tr>
</table>

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	２．市民の学びを支える地域づくり			
施策	３．芸術・文化の環境づくり			
当該事業名	稚内市二十歳の集い開催事業	担当課	社会教育課	
事業目的	社会の一員として果たすべき義務と権利を再認識し、そしてその門出を市全体で祝うことを目的とする。			
事業費（決算）（単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	1,253千円	580千円	588千円	598千円
行動目標	対象者は自らの義務と権利を認識し、地域社会の構成員として自らの役目を果たす契機とするとともに、慈しみ育ててくれた保護者に感謝し、関係者や保護者は祝意を表し、地域全体で祝う式典を創る。			
成果目標	○会場内における義務や権利についての学びや啓蒙活動 ○市民団体によるアトラクションや恩師のメッセージなど、社会の担い手としての自覚につながる会場づくり ○代表者による宣誓、司会など自らが創り、運営する式典づくり			
事業内容（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年			
	上半期			
	下半期	・対象者の抽出及び案内 ・関係者への案内や依頼等 ・式典の挙行		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	日　時：令和6年1月7日（日）13：00～ 会　場：稚内総合文化センター 対象者：平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれの方 出席　205人（男109人、女96人） 来賓・保護者　112人		A
	成果等	○保護者や関係者の参列のもと、対象者の多くが参加し社会の一員としての認識を深め、市全体で祝う場とすることができた。 ○新型コロナウイルスが５類に移行してから初の式典として、特段、感染防止対策を促さず、コロナ禍前の平時の形式で開催した。 ○対象年齢層人口の減少によって、参加者の実数は減少傾向にあるなか、参加率としては前年度を上回った。		A
	Ａ：目標以上の取組を実施した　Ｂ：一定程度取り組んだ　Ｃ：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	人口減少によって、本事業の対象人数も減少傾向にあるが、対象者が社会の一員としてその義務や責任を自覚する場、保護者や関係者も含め地域全体でその門出を祝うため、仮にコロナ禍のような場合にも、状況に合わせ、持続可能な形で継続していく。			
	改善策			
	対象者が、成人としての責務や式典の趣旨を理解・体感でき、また、これまで育ててくれた保護者や地域社会に感謝を表するとともに、本市全体で祝う式典を継続していく。			

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">２．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">４．自然・歴史・産業などを学ぶことによる郷土観の確立</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">樺太記念館維持管理事業</td><td>担当課</td><td>社会教育課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">稚内市樺太記念館において市民や観光客に樺太と稚内に関する歴史的財産を保存継承するとともに、それらを紹介し、当該地域の歴史的理解を深める。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R３年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>3,744千円</td><td>3,766千円</td><td>3,989千円</td><td>5,223千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇常設展示を中心に企画展示や市民講座（樺太記念館講座）を開講し、市民に情報提供を行う
〇樺太と稚内とのつながりを示す資料を収集し、展示物の充実を図る</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">常設展示の充実を図るとともに、年間数回、テーマを設け企画展示を開催し、より多くの方々の来館と理解を促す。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">〇常設展示と企画展示の実施
〇樺太資料の整理。寄贈資料の受け入れ。団体見学などの対応
〇樺太記念館講座の実施</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇常設展示
〇企画展Ⅰ「斉藤マサヨシ写真展　利尻富士百景2023」
令和5年8月10日～9月30日
〇企画展Ⅱ「斉藤マサヨシ写真紀行　ボーダーツーリズムの記録　写真展」
令和5年12月2日～令和6年3月31日
・トークセッション「端っこから始まる旅」　12月2日
・ミュージアムトーク（展示解説型講座）</td><td>A</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇18,463人（市内2,133人、市外16,330人）の方が来館し、ほぼコロナ禍前の水準に戻り、多くの方が見学され樺太への理解を深めていただいた。
〇常設展示のほか、企画展において写真パネル、解説パネルの展示を行った。
〇企画展開催期間中に、有識者による関連講座を行った。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="3">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">樺太関連資料の展示に加えて、樺太出身者や見識がある方等の講座や解説の機会を確保し、本市と樺太の関わりや歴史をより伝えられるよう充実させていく必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">樺太出身者や関係者と連携し、講座や解説の機会の確保に努める。
より来館者にとってわかりやすく、地域の歴史を伝える事が出来るよう心掛けるとともに、理解し易い展示の工夫や興味を引くような企画展などを実施する。</td></tr>
</table>

≪重点取組７≫
生涯教育の推進と支援

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">２．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">１．誰もが気軽に学べる生涯学習の推進</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">生涯学習活動支援事業</td><td>担当課</td><td>生涯学習総合支援センター</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">生涯を通じて市民ひとり一人の好奇心を総合的かつ継続性をもって応援し、その学びの活動の様子や成果を積極的に外に発信し、より意識が高い生涯学習社会を構築する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R４年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>8,090千円</td><td>8,313千円</td><td>8,744千円</td><td>10,663千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇関係機関のコーディネート（生涯学習推進アドバイザーを中心に、学校教育機関のメンバーとの連絡調整や、共同事業の推進にあたってのコーディネートを図る）
〇施設情報の積極的な外部発信（各種講座、サークル活動の様子を外部に積極的に発信し、より多くの市民が施設について理解を深められるような取り組みを行う）</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇学習メニューの開発（施設を活用した学社連携による学習メニューの創出や、これまでの市民講座にとらわれない新たな講座を検討し実践していく）
〇親しまれる施設としてのイメージの定着（施設内にあるＦＭわっぴー放送局を効果的に活用し、「ここに来るとこんなことが出来る、こんな活動の様子を見れる」などのイメージを市民に定着させていく）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">〇高齢者大学《声問楽生大学》・体験学習　・健康講座　・施設見学
〇風～る主催体験事業　・成人向け体験講座（そば打ち体験）</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">〇子どもの広場【前期】・ものづくり（手芸・工作・木工作・調理）
〇高齢者大学《いきいき大学》【前期】・ものづくり（木工・調理・藍染め）・健康講座
〇風～る主催体験事業　・風～るクラブ キッズ（木工作・調理）【前期】</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">〇子どもの広場【後期】・ものづくり（手芸・工作・木工作・調理）
〇高齢者大学《いきいき大学》【後期】・体験学習（調理）・ものづくり（木工作）
〇風～る主催体験事業　・風～るクラブ キッズ（木工作・調理）【後期】</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4">生涯学習推進アドバイザー及び補助員の報酬において、それぞれの賃金単価の増額があったため</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇高齢者大学【声問楽生大学】
・体験講座ー工作（マリンドーム、貝殻工作等）・調理（うどん作り）
・健康講座ー調理・運動（体に良い食べ物／食生活・軽体操）
・施設見学　・レクリエーション大会（室内レク）
〇高齢者大学【いきいき大学】※健康講座は合同学習で実施
・木工作（ミニテーブル・ミニチェア（花台））
・工作（正月リースの飾り付け）・健康講座（食生活・軽体操）
・趣味体験（そば打ち、藍染め、手打ちうどん、どら焼き作り）
〇子どもの広場
・木工作・工作（ミニチェア、ミニテーブル、マイバック、壁飾り等）
・電子工作（LEDが光る回路の作成）
・調理（一口ピザ、どら焼きづくり、ベビーカステラ、うどん作り）
〇風～る主催体験事業
・風～るクラブ キッズ（木工作、調理（鮭を使った料理等））
・成人向け体験講座（そば打ち体験）</td><td>A</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">生涯学習推進アドバイザーを中心に子どもから高齢者を対象とした、学びやものづくりの場を提供できた。また、外部の講師を招き、健康講座なども開催でき、地域の人材の活用も行った。子どもの講座は、利用者ニーズが多く、毎回、抽選になる等盛況であった。</td><td>A</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇毎年の課題だが、学校教育機関（教育相談所・教育研究所）のマンパワーを活用した講座等の開催ができていない。
〇高齢者大学（声問楽生大学）の学生の平均年齢が高くなってきており、活動に個人差も生じてきていることから、進め方と講座内容についてはもちろん、方向性も検討する時期が来ている。
〇風～る主催体験事業における中間層（成人）を対象にした体験活動の充実。
〇実施事業等の情報発信の工夫。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇生涯学習推進アドバイザーを通じて、学校教育機関との連絡調整を継続して行い、開催可能な講座について模索する。
〇高齢者大学及び市の講座等で行ったアンケート結果等を参考に高齢者及び成人層のニーズを把握する。
〇稚内市ＨＰ、わっぴー、報道機関を積極的に利用しながら、情報の発信を継続して行う。</td></tr>
</table>

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	２．市民の学びを支える地域づくり			
施策	１．誰もが気軽に学べる生涯学習の推進			
当該事業名	社会教育推進事業	担当課	社会教育課	
事業目的	教養・生きがい・キャリアアップ・技能や知識の習得・学習相談など、幅広い年齢層の学習ニーズに対応することで、市民全体の学ぶ意識の向上を図る。			
事業費（決算）（単位：千円）	R３年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	1,215千円	1,446千円	971千円	1,546千円
行動目標	本市や縁のある人材を効果的に活用し、主に成人を対象とする趣味などに活用できる市民講座をはじめとする各種講座、稚内学では地域を素材とする学習メニューを考案・提供するなど、多様な年齢層に対応した学習機会の場を提供していくと共に、地域人材の掘り起しや情報整理を行う。			
成果目標	○地域やサークル、新たな人材を活用するなどして講座を実施することで学習意欲を育み、あらゆる年齢層にわたる生涯学習社会の構築を目指す ○本市の歴史や自然、人物、文化など様々なことを学ぶことにより、「稚内」の新たな魅力を発見すると共に、ふるさとに対する誇りや『まちづくり』につながる郷土愛を育む ○本市に縁があり、各界で活躍する方々を講師に迎え、中学校・高等学校で講演を実施し、生徒たちが夢や希望をもって自分の将来や進路を考える機会とする ○人材バンクの更新作業を行い、市民への学習機会提供の幅を広げる			
事業内容（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	○講座の受付・実施 ○サークルや市民活動団体の情報把握(人材バンク)		
	上半期	○稚内学 ○市民講座		
	下半期	○稚内学 ○市民講座 ○ふるさと・子ども夢プロジェクトの開催		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	○市民講座　（７講座を実施 参加者84人） ○稚内学　　（3回）参加者195名 ○ふるさと・子ども夢プロジェクト 講師：小坂　輝雄　氏　（アルパテック株式会社会長） 「夢に向かって稚内から挑戦」 受講者　高校生578名　中学生101名 ○学びと遊びの玉手箱の発行 （登録団体89、指導者47名）		B
	成果等	○受講者それぞれが、興味関心がある講座等を受講し、達成感や成就感を得られたという好評の声が寄せられた ○子ども夢プロジェクトでは、首都圏で活躍する稚内出身の講師を迎え、中学校、高校で講演をいただき、生徒一人ひとりが自身の将来を考える機会とすることができた ○稚内学では、関係者、講師の協力を得て、平和学習と連動した講座を行った。		B
	A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	各種講座の内容、開催日、時間帯など市民ニーズに応じたものとなるよう、根本である講師の確保をはじめとして、内容の精選を継続し体験・学習の場を提供していく必要がある。			
	改善策			
	これまでの講座に加えて、新規ニーズに応じて講師を務められる人材の掘り起こしを行うとともに、幅広い年齢増の方が、それぞれの興味関心がある学習の機会を得られるように、とり進めていく。			

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">1．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">2．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">1．誰もが気軽に学べる生涯学習の推進</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">図書館活動事業</td><td>担当課</td><td>図書館</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">子どもの自主的な読書活動を促進するためには、図書館・家庭・地域・学校などの役割を明確にするとともに、関係機関や団体などと連携し、様々な取組を推進する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>15,785千円</td><td>15,924千円</td><td>15,779千円</td><td>21,054千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇第三次稚内子どもの読書活動推進計画に基づいた、子どもの読書活動の推進、読書環境の整備・充実を進める。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇読書環境づくりや、読書の楽しさを実感できる事業の実施による利用者の増加
〇学校図書館との連携を図り、子どもの読書離れの対応をする。
〇インスタグラムやHPを活用した情報発信の強化</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">〇ブックスタート、読み聞かせ、団体貸出・ブックパック等の実施
〇読書通帳の配布
〇インスタグラムなどの情報発信</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">〇こどもの読書週間イベントの開催
〇図書館フェスティバルの開催
〇夏休みこどもの学びサポートin図書館の開催</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">〇図書館まつりの開催
〇読書感想文コンクールの実施</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇ブックスタート、読み聞かせ、団体貸出・ブックパック等の実施
〇図書館友の会などのボランティア団体と連携したイベントの開催
〇季節に合わせたものや趣向を凝らしたものなど、様々な情報発信、図書展示による読書啓発</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇児童向けに新たな団体貸出パックを作成し、学校や学童保育所向けなどの団体貸出数を伸ばしている。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇人口減少や少子化、読書離れなどの影響により、年々貸出利用者数が減少している。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇自宅や学校で読書を楽しめるようサポート体制を整える。
〇児童が楽しめるイベントを開催し図書館への来館を促す。
〇学校や地域に図書館が出向いてサービスを提供するアウトリーチサービスを取り進める。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">２．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">１．誰もが気軽に学べる生涯学習の推進</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">青少年科学館管理運営事業・青少年科学館主催事業</td><td>担当課</td><td>科学振興課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">青少年が科学現象の不可思議への好奇心を発端として、科学に対する関心と探究心を育てていく機会と場を提供することを目的として本事業を行う。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>12,052千円</td><td>23,160千円</td><td>28,157千円</td><td>32,245千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">〇科学に触れ合う機会の増進（理科実験教室等の充実）
〇科学を身近に感じられる環境づくりの推進（展示物の工夫をし、楽しく体験し学習できる）
〇学校教育への支援（職場体験、インターシップの受入）</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">〇実験教室の内容や回数等の見直し及び実行をする。
〇低予算での展示物の自作や巡回展の積極的導入をする。
〇利用者及び入館者の増加を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">〇サイエンス事業の推進（理科実験教室等の実施）
〇企画展・巡回展の実施
〇天文普及事業の実施（市民天体観望会、移動天体観望会）
〇プラネタリウム普及事業（一般投影、学習投影、デジタル映像番組の上映）
〇職場体験、インターシップの受入</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">〇サイエンスクラブ前期の実施。
〇サマースクールの実施。（水族館合同）</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">〇サイエンスクラブ後期の実施。
〇冬休み自由研究の実施。</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4">整備工事実施に伴う増額。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">〇サイエンス事業の開催（サイエンスショー、オープンラボ6回、わくわくサイエンス4回、冬休み自由研究2回、キッズチャレンジ３回、ちょこっとラボ８回、大人のためのサイエンス工房３回、サイエンスクラブ前・後期、サマースクール）
〇科学普及事業（巡回展示・企画展1回）
〇天文普及事業（市民天体観望会3回、移動天体観望会１回）
〇プラネタリウム普及事業（学習投影21回、南極の夜空オーロラ47回、一般投影85回）</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">〇入館者数　R5年度 41,016人、R4年度 38,733人（＋2,283人、5.9%増）
〇サイエンス事業参加者数（サイエンスショー89人、オープンラボ203人、わくわく63人、冬休み自由研究19人、キッズチャレンジ26人、ちょこっとラボ111人、大人のためのサイエンス工房16人、サイエンスクラブ7人、サマースクール11人）
〇科学普及事業（巡回展・企画展観覧者数）10,894人
〇天文普及事業（市民天体観望47人、移動天体観望会43人）
〇プラネタリウム普及事業（学習投影405人、南極の夜空オーロラ171人、一般投影1,084人、デジタル映像番組4,795人）</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ａ：目標以上の取組を実施した　　Ｂ：一定程度取り組んだ　　Ｃ：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　　状　　の　　課　　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇建物の外観、内装の改修、設備の更新。
〇自作による展示物の更新。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　　善　　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">〇建物の補修計画、設備の更新計画の見直しと新たな年次計画の更新。（継続）
〇職員による、予算内での体験でき楽しく学べるための展示物の企画、作成。（継続）
〇他館からの展示物の寄贈、交換、情報交換。（継続）</td></tr>
</table>

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	２．市民の学びを支える地域づくり			
施策	１．誰もが気軽に学べる生涯学習の推進			
当該事業名	水族館施設維持管理事業・水族館飼育事業	担当課	科学振興課	
事業目的	周辺海域に生息する水棲生物の生態を直に見ることができる機会と場を提供することにより、青少年が野生動物と自然環境に対する興味と関心を更に深めていく一助とすることを目的として本事業を行う。			
事業費（決算）（単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	35,196千円	29,563千円	56,260千円	44,413千円
行動目標	○建物の補修、設備の更新等。 ○企画展の実施。 ○学校教育の支援。			
成果目標	○建物の補修、設備の更新等への予算計上。 ○利用者増を図る。 ○自然環境教育学習への職員派遣、職場体験、インターンシップの受入。			
事業内容（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	○建物の補修及び設備の更新。 ○展示生物の収集、企画展の開催。 ○自然環境教育学習への職員派遣、職場体験、インターンシップの受入。		
	上半期	○アザラシ・ペンギンショーの開催。（4～10月） ○アザラシのエサやり体験の実施。（4～10月） ○企画展の準備及び開催。 ○職場体験、インターンシップの受入。		
	下半期	○企画展の準備及び実施。 ○職場体験、インターンシップの受入。 ○水槽の清掃、設備のメンテナンス（12，1月整備休館）		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由	R5年度の決算額が増加した理由 水族館の外壁補修工事を行ったことにより増額となった。 工事費：2,604千円			
達成度・効果度	実施内容	○企画展 ・「にょろにょろ」4/29～5/31 ・「ノシャップ夏祭り」7/15～10/31 ・カニつり体験7/15～10/31 ○職場体験、インターンシップの受入。		B
	成果等	○入館者数　R5年度 41,016人、R4年度 38,733人（+2,283人、5.9%増） ○企画展（企画展2回・カニ釣り）観覧者数29,631人 ○自然環境教育学習への職員派遣（2校） ○職場体験・インターンシップ受入数（8校　21人）		B
	A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	○施設の老朽化に伴う外観および内装の補及び設備機器の更新、修繕。 ○展示生物の確保。 ○魚価高騰及び不漁による飼料の必要量の確保が、非常に厳しい。			
	改善策			
	○建物の補修計画、設備の更新計画に従い、随時進める。（予算計上） ○近隣の漁業関係者、水産試験場、漁組への展示生物の支援依頼の継続。 ○飼料に関しては、他の魚類（オオナゴ以外）を検討し、試験的に与えてみる。			

基本目標	１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”			
政策	２．市民の学びを支える地域づくり			
施策	２．生涯スポーツの推進			
当該事業名	市民スポーツ活動促進事業	担当課	総務スポーツ課	
事業目的	スポーツ教室や交流事業を実施するとともに、スポーツ協会が行うスポーツ教室や体力診断、指導者・スポーツ団体の育成事業を支援する。			
事業費（決算）（単位：千円）	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度（予算）
	16,637千円	16,587千円	15,201千円	18,152千円
行動目標	○すべての市民がスポーツに親しむことができる環境を整備するため各事業を実施する。			
成果目標	○市民の誰もがそれぞれの体力や年齢、興味・目的に応じて、スポーツに親しむことができる環境を整備し、スポーツ活動を通じて健康でいきいきと生活できるまちを創造する。			
事業内容（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）	通年	スポーツ教室等実施事業、種目別スポーツ教室開設事業、指導者育成事業、競技力向上事業、スポーツ団体育成事業		
	上半期	スポーツ交流事業、新体力テスト実施支援事業、市民スポーツ交流事業		
	下半期	地域スポーツ活動普及事業		
前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由				
達成度・効果度	実施内容	○スポーツ教室（親子；延べ364人、ジュニスポ；延べ4,872人） ○新体力テスト実施支援事業（小学校5校；延べ979人） ○地域スポーツ活動普及事業（2団体；38人） ○種目別スポーツ教室；5種目6教室・参加者73人（卓球教室１人/太極拳教室15人/剣道教室26人/杖道教室１人/小学生スノーボード教室22人、一般スノーボード教室８人） ○市民スポーツ交流事業（陸上競技協会他計12団体） ○指導者育成事業（スポーツ指導者研修会16人、資格取得・更新助成３人、トレーニングセミナー52人） ○競技力向上事業 ・全道レベル強化事業助成（軟式野球連盟他計７団体７事業） ・研修事業開催助成（外部指導；軟式野球連盟他計６団体６事業、内部指導；卓球協会他計１０団体２８事業） ○強化事業開催助成（剣道連盟他計３団体） ○競技力向上研修会（剣道連盟他計５種目389人） ○スポーツ団体育成事業 ・市スポーツ少年団傘下育成助成（13種目、団員374人、指導者81人） ・青少年健全育成事業（SHIPS交流大会211人、ジュニア・リーダースクール22人、アクティブ・チャイルド・プログラム普及講習会16人、運動適正テストⅡ研修会12人、スポーツ少年団・学校交流研修会37人、スポーツ少年団等表彰：指導者3人、単位団1団体、優秀団体1団体、優秀個人11人） ・少年団交通遠征費助成（柔道少年団他計17団体）		B
	成果等	○市民の健康・体力づくりに関する事業の実施により健康増進につながっている。 ○競技団体による指導者研修や研修事業は、高度な技術を習得でき、自らも高い技術を習得しようとする意欲へ繋がっている。		B
	A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった			
今後の取組	現状の課題			
	○運動やスポーツ離れが進んでおり、週１回以上のスポーツ実施率は令和４年度49.0%（目標値65.0%）とスポーツ実施率が低下している。			
	改善策			
	○市民ニーズを踏まえ関係機関と連携しながら、それぞれのライフステージに応じたスポーツに親しむ機会を創出し、気軽に取り組みやすい環境づくりをすすめていく。			

<table>
<tr><td>基本目標</td><td colspan="4">１．子ども・若者の夢を育み、次代を担う”ひとづくり”</td></tr>
<tr><td>政策</td><td colspan="4">２．市民の学びを支える地域づくり</td></tr>
<tr><td>施策</td><td colspan="4">２．生涯スポーツの推進</td></tr>
<tr><td>当該事業名</td><td colspan="2">日本最北端わっかない平和マラソン開催費補助事業</td><td>担当課</td><td>総務スポーツ課</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">世界の恒久平和を願い、国内外の多数の選手の参加のもと、フルマラソン及びショートマラソン大会を開催する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">事業費（決算）
（単位：千円）</td><td>R3年度</td><td>R4年度</td><td>R5年度</td><td>R6年度（予算）</td></tr>
<tr><td>2,986千円</td><td>16,991千円</td><td>18,741千円</td><td>24,000千円</td></tr>
<tr><td>行動目標</td><td colspan="4">○市内外から多くの方に参加いただき、満足してもらう大会運営を行う。</td></tr>
<tr><td>成果目標</td><td colspan="4">○市を代表するスポーツイベントに育てることで市民の健康・体力づくりを推進し、地域特性を活かしたスポーツイベントとして全国に発信して交流人口の増加を図る。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業内容
（ｽｹｼﾞｭｰﾙ）</td><td>通年</td><td colspan="3">○実行委員会を４回/年程度開催し、マラソン開催に向けて協議を行っている</td></tr>
<tr><td>上半期</td><td colspan="3">○大会参加申込開始（4月1日）、協賛企業の募集、ボランティア募集、各関係団体と協議</td></tr>
<tr><td>下半期</td><td colspan="3">○大会の実施（9月第１週日曜日）、反省、次年度に向けてポスター、パンフレット等の準備作成</td></tr>
<tr><td>前年度の決算額と大幅な増減があった場合の理由</td><td colspan="4">新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことに伴い、参加者がコロナ禍より増加したため、必要経費が増加した</td></tr>
<tr><td rowspan="3">達成度・効果度</td><td>実施内容</td><td colspan="2">日程：令和５年9月３日（第６回）
フルマラソンの部　エントリー：　727人　完走者：　578人
ショートの部　　エントリー：　484人　完走者：　416人
総計　　エントリー：1,211人　完走者：　994人</td><td>B</td></tr>
<tr><td>成果等</td><td colspan="2">○市内参加者が第５回大会から微増し（R4:422人、R5:431人）、市民の健康・体力づくりに寄与できた。
○市外参加者が第５回大会から200人ほど増加（R4:575人、R5:776人）するとともに、776人のうち354人（約46%）が前大会からのリピーターであり、交流人口の増加につながった。
○市をあげての一大イベントとして、市内参加者やボランティアなど、多くの市民にスポーツに関わるという機会を提供できた。</td><td>B</td></tr>
<tr><td colspan="4">A：目標以上の取組を実施した　B：一定程度取り組んだ　C：目標に及ばなかった</td></tr>
<tr><td rowspan="4">今後の取組</td><td colspan="4">現　状　の　課　題</td></tr>
<tr><td colspan="4">○フルマラソンの定員1,000人に対し、現状700人ほどの参加であり、定員上限の募集を目指しているが、宿泊施設の不足が想定される。
○目的である「世界の恒久平和の願い」に関する内容が不足している。</td></tr>
<tr><td colspan="4">改　善　策</td></tr>
<tr><td colspan="4">○稚内ホテル旅館業組合などと連携し大会実行委員会で宿泊施設の確保に関する対策を協議する。
○開会式等で目的の説明や取組（大韓航空機犠牲者への黙とう）などの導入を検討する。</td></tr>
</table>

Ⅳ　学識経験者の意見

【　遠藤　孝夫　氏　】　（育英館大学　情報メディア学部長）

１　総 評

稚内市教育委員会による令和５年度稚内市教育委員会活動状況及び点検・評価は、適切である。

稚内市教育委員会の活動状況に関して、教育委員会会議及び総合教育会議は適正に開催され、必要な審議及び協議がなされている。また、教育委員が教育現場の状況を理解し、職務遂行に必要な知識を習得する機会が推進されている。

稚内市教育委員会で実施した重要施策の中から評価が行われた 20 事業に関して、妥当な自己評価がなされている。

以上より、令和５年度稚内市教育委員会活動状況及び点検・評価が妥当であると結論付ける。

令和５年度における教育委員及び関係各位のご尽力に敬意を表する。

引き続き、家庭教育、学校教育、社会教育のそれぞれを充実させるとともに相互の連携を図り、社会の発展に資することを期待する。

２ 事業の点検・評価に対する意見

（１）教育委員会の活動状況について

令和５年度は、教育委員会の会議が 14 回開催されている。

また、総合教育会議は１回開催されている。これらの会議は定期的に開催され、諸課題についての審議や報告、協議が適切になされていると判断される。

教育委員にとって必要な知識を獲得し、教育現場の現状を理解することは、職務遂行の上での前提条件である。教育委員は、令和５年度に３校の学校視察訪問を行っている。その他の活動として、教育委員は研修会の参加や他の自治体の教育委員会との意見交換を通して、職務遂行に必要な知識の習得に努めている。

また、市長との意見交換を行いつつも、市長から独立した合議制の執行機関として教育行政の推進が図られている。

このように、知識獲得と現状理解に関わる取り組みが適切になされている。

（２）事業に対することについて

20 事業のうち、７事業について意見を述べる。

①「小中学校教育振興事業（学力向上推進関係）」について

令和５年４月に全国学力・学習状況調査（文部科学省・国立教育政策研究所による小学校第６学年及び中学校第３学年の全児童生徒を対象とした悉皆方式の教科に関する調査（国語、算数・数学）と質問調査）、令和５年 12 月から令和６年１月にかけて CRT 標準学力検査（学習指導要領に示された基礎的・基本的な内容の到達状況を適切に把握できるように作成された学力検査）が実施され、その分析・検証が行われ、指導方法の見直し等が図られた。

全国学力・学習状況調査では、全国平均に届いていないものの、前年度と比較すると小学校は算数、中学校は国語・数学において全国平均との差を縮めてきている。

引き続き指導方法に関する改善・共有等に取り組みつつ、課題となっている授業支援アプリや AI ドリル等 ICT を活用した効果的な授業づくりへ向けて関係する教育機関等とも連携して検討を進めることが望まれる。

②「GIGA スクール構想整備事業」について

学校情報化推進検討委員会においてタブレット端末の活用等について学校間の情報共有が図られ、タブレット端末の更なる活用に向けて検討が行われた。

端末の持ち帰りやアプリ活用のルールといった学校情報化推進検討委員会で確認された現状の課題に関する改善策を調査・検討しながら、児童生徒の学習環境の充実・学びの機会の保障に繋がる取り組みが今後進められることが期待される。

③「子育て推進事業」について

コロナ禍のため３年間中止されてきた行事「親子ふれあいデー」が再開され、子ども会議はオンラインと対面でのハイブリット型で２回開催された。

また、大韓航空機事件から 40 年の節目の年となった平和記念式典には学校・関係団体を含め約 200 人が参加し、充実した子育て平和の取り組みが進められ、意識の醸成が図られたことは評価される。

今後も各事業を通して、学校・家庭・地域が状況を共有しながら見識を深める機会を継続、展開していくことが求められる。

④「教育相談・不登校対策事業」について

児童生徒の問題行動や悩み等に対応する教育相談は、電話や来所面接といった方法で実施された。件数は、令和２年度 491 件、令和３年度 414 件、令和４年度 551 件と推移しており、令和５年度は 447 件と前年度から減少しているが必要性は依然として高い。

学校不適応児童生徒の心理的情緒的な安定を図り、安心できる環境の中で意欲や自信の回復を目指す適応指導教室には 20 名が通級している。

スタッフ会議、適応指導委員会において、支援を要したり課題があったりする児童生徒について交流・協議がなされ、早期対応、助言、課題解決等に繋げられている。

相談等の多様化・複雑化に対応しながら、退職教員や適任者の確保という課題が挙げられるが、保護者や関係者・関係機関との連携により、体制の維持・充実が望まれる。

⑤「学校給食費助成事業」について

令和５年度より制度が拡充された。前年度と同基準の世帯を対象に上半期の給食費を助成する学校給食費特別助成金に加え、原則全世帯を対象とし下半期の給食費を助成する学校給食費助成金が実施され、学校教育の充実及び子育て支援の推進が図られた。

学校給食費特別助成金を受けることができる世帯数は、税情報が関係することから把握が困難なため、各学校への制度説明・協力依頼のほか、広報誌やホームページなどによる制度の周知活動が実施された。さらに、前年申請があって本年度に申請がない方に対する個別の連絡に取り組まれるなど、とても配慮された対応がなされた。

学校給食費特別助成金の助成率については、小学校で前年度の 11.85％から 11.94％と若干上昇したものの、中学校で前年度の 14.19％から 9.27％と減少したため、全体では前年度の 12.61％から 11.07％と減少した。

今後も丁寧な周知を実施し、各学校とも連携・協力して必要な就学援助事業を効果的に推進することが求められる。

⑥「稚内市文化事業振興協議会事業費補助事業」について

国際色豊かな文化都市を目指し、舞台芸術の鑑賞機会を提供するとともに、稚内総合文化センターの利用促進を目的とした本事業において、令和５年度は子ども達に人気・知名度がある原作小説を基にした人形劇が招致され、幼児や児童生徒を含む親子ら約 500 人の観客が来場し、公演と連動した模擬駄菓子屋の体験等も含め好評が得られた。

これまでの公演実績や稚内総合文化センターの状況、さまざまな年齢層の市民ニーズ

を鑑みた公演の選定や、各分野の文化団体との調整、市民参加型公演の実現可能性の模索等多くの検討事項が挙げられるが、今後も市民の学びを支える芸術・文化活動の環境づくりが期待される。

⑦「水族館施設維持管理事業・水族館飼育事業」について

水族館の外壁補修、設備の更新等ハードウェアの整備を進めつつ、企画展の実施により利用者増を目指され、また自然環境教育学習への職員派遣、職場体験、インターンシップの受入れ等活動の適切かつ効果的な運営に寄与する職員等の能力開発も図られている。

入館者数は、令和４年度は 38,733 人、令和５年度は 41,016 人と 5.9%増加している。

飼料の確保等困難な課題は挙げられるが、必要なハードの整備、ソフトの充実等を図りつつ、水棲生物の生態を直に見ることで市民が野生動物や自然環境への興味・関心を深める場・機会としての水族館の機能を保持することは意義深いものと考えられる。

【　川原　修子　氏　】　（稚内市校長会　会長）

１　総　評

令和５年度に実施した稚内市教育委員会の「重点取組」及び、「令和５年度教育行政執行方針」の施策に関して「稚内市教育委員会活動状況に関する点検・評価報告書」の内容を確認したが、活動状況の内容及び点検、評価は概ね適正と判断する。令和５年度における教育委員会及び関係各位のご尽力に敬意を表する。

市自体が「子育て平和都市宣言」をしているのは、全国でも例を見ず、稚内市が大切にしてきた「子育て運動と平和」は、変化が目まぐるしく、先の見通せない課題山積の現代において、重要性は一層増している。日本最北端の国際都市として、次代を担う子どもたちの健やかな成長と平和なまちづくりを高い志を持って引き続き進めていくことを心から期待する。

２　事業の点検・評価に対する意見

（１）　教育委員会の活動状況について

令和５年度の教育委員会議は毎月１回定期的に実施され、各案件について事務局からの報告と会議における協議が十分になされてきたと考える。

また、総合教育会議についても例年通りに行われ、本市の教育課題について協議がなされたと考える。

学校視察も３回行い、教職員との懇談を通し、諸問題に関する意見や要望を吸い上げ、行政に反映させる活動も行っている。

さらに、会議・研修会・学校行事への参加等、教育現場の状況理解、市長との意見交換など、合議制の執行機関として適切な取組がなされている。

（２）　事業に対することについて

20 事業のうち、7 事業について意見を述べる。

①小中学校教育振興事業（学力向上推進関係）

全国学力学習状況調査及び CRT 標準学力検査において各教科の平均を全国平均に近づけていく成果目標に対し、成果として全国平均までは至っていないが、昨年度と比較すると小学校は算数、中学校は国語・数学において全国との差を縮めてきており、成果が

見られる。

今後は、ICTの効果的活用を模索し、授業のみならず、子どもたちが主体的・対話的で深い学びを通して学力を身に付けていくための対策を練ることが求められる。

②稚内中学校整備事業

老朽化している稚内中学校の校舎・体育館の耐震補強をきっかけとしながら、小中一貫教育を深化させた義務教育学校を視野に入れた学校作りは、今後、児童生徒数が減少し、稚内市内の学校再編成が予想される中、重要な取組と考えられる。今後、検討会の中で、より豊かな教育活動になるよう意見を集め、稚内市のモデル的実践となることを期待している。

③子育て推進事業

子どもが平和の大切さを学ぶとともに、家庭や地域の教育力が育まれ、教育環境の充実につながるよう、学校・家庭・地域が一体となった子育て運動を強化するという成果目標に対し、行事・講演会を中心に多くの事業が展開されている。中でも平和記念式典は大韓航空機事件から４０年が経ったが、風化させることなく、国境の街稚内として、稚内市内に多くある平和学習の素材を活用しながら守り継いでいくことが重要と考える。

④児童家庭相談・母子家庭等自立支援事業

子育ては「弧育て」であればあるほど、内にこもり、子どもの成長にとって望ましくない環境に置かれてしまいがちであると考えるが、この事業により、稚内市は一人の子どもも保護者も置き去りにしないという暖かさと手厚さを感じることができる。相談件数が横ばいであっても、内容が複雑・多岐にわたり対応は一筋縄ではいかないが、今後も是非大切にしていきたい事業であることは間違いない。

⑤学校給食地場産物提供事業

教室のお友達と食べるという楽しい行為の中、学校給食に稚内ブランドや地場産物の食材が取り入れられることは、子どもたちの心の中に「ふるさと 稚内」を思う温かい気持ちが育つ何よりの食育につながる素晴らしい取組である。給食センターの施設設備の関係で生の魚介類や泥付の野菜を処理することができないことは理解できるので、報告

書に書かれてあるような改善策をとることは大いに価値があると考える。

⑥樺太記念館維持管理事業

樺太記念館において、市民や観光客に稚内に関する歴史的財産を保存継承するとともに、歴史的理解を深めていく事業目的は、日本最北の街としての責務と考える。樺太出身者や関係者も減少していくことが考えられる中、今の平和の尊さに感謝と、今後の国同士の交流のあり方も考えることができるよう、一層の工夫を期待する。

⑦図書館活動事業

子どもの読書活動の推進、読書活動の整備・充実のために、様々な事業を実施し、子どもたちの興味関心を引いている。学校へのブックパックの取組も毎回子どもたちは大変楽しみにしていて、教員も読み聞かせに大いに活用している。今後の取組の中に、アウトリーチサービスがあるが大変楽しみである。